

琉球新報

2009年(平成21年)
1月9日 金曜日

声

1月

三浦さんの落ち穂

玉城 隆 56歳

打ては響くように、三浦陽二さん(沖繩タルク(薬物依存治療施設)チーフディレクター)のコラム「落ち穂」(本紙文化面)を読み投稿したいと思いました。何をどう書けば思いが伝わるのか分かりませんが、一読者としてどうしても伝えたいことがあります。

三浦さんは話したくない自分の過去や、汚点とも言えることを赤裸々に書いています。そのことが、近い経験や病気をした人にどれほどの勇気と感動を与えたか、想像できます。僕はあ

なたのコラムに涙が流れました。ミスや間違いを犯しても立ち直れること、マイナスと思えることも経験を通しプラスに変えることができること、苦しみの中に、いつか希望が生まれること。うまく書けません。三浦さんの文章から伝わりました。

三浦さんの文章に「たまに洗濯や掃除を忙しくしているのに自由を感じている」とありました。当たり前のことが当たり前にできる幸せ、分かるような気がします。これからも三浦さんの才能を社会のために生かしてください。

すてきな文章と勇気をありがとうございます。

(名護市、販売業)